

# 中山間地域におけるコミュニティ事業形成に関わる実践的研究

## － 岩手県川井村の事例を通して －

### A Practical Study on the Community Project in Hilly and Mountain Areas

環境・地域政策系防災と地域整備分野

佐々木 ひとみ

本論文は、中山間地域において地域住民が、地域資源を活かしながら自主的に地域の活性化に結びつく活動に取り組んでいる事業の中で、その事業が副業や雇用の創出、参加住民の「働きがい」や「生きがい」に繋がり、かつ、その事業が自治体や企業などと地域住民の協働で取り組まれ、地域からも支えられている事業をコミュニティ事業と定義し、そのコミュニティ事業に関する調査研究の成果を取りまとめたものである。

本研究は、人口流出や高齢化率の比較的高い中山間地域である岩手県川井村を対象に、地域の活性化に繋がる活動を実践している団体を調査することにより、組織の活動状況、組織の形成過程、形成条件、形成方法などを明らかにし、川井村において新たなコミュニティ事業の展開と可能性を検討するために、中山間地域におけるコミュニティ事業に関する知見を得、定住化など地域を活性化させるための仕組みづくりの方法を見出そうというものである。

中山間地域は、多様な農林水産物などの供給、国土・環境保全や水資源の涵養の機能等を有し、豊かで美しい自然環境に恵まれた居住空間や余暇保養空間の提供の場であり、伝統的芸術や文化の継承、など多様な役割を果たしてきている。しかし、依然として、就業機会の減少、経済活動の停滞、農林業の担い手の減少、少子・高齢化などによる問題が残されており、地域の衰退にどのような歯止めをかけるかが課題とされてきた。

その対策として、かつてこれらの地域には、地域活性化のために政府や地方自治体による投資や

企業誘致が推進されるなど、様々な助成や活性化対策が投入されてきた。それら事業によって、農業の近代化や生活環境の向上に結びついたのは事実である。しかしながら、これらの地域の現状は依然として、就業機会の減少、経済活動の停滞、農林業の担い手の減少、少子・高齢化などの地域の衰退が課題として残されており、住民は必ずしもその生活環境に満足しているわけではなく、その多くは先祖伝来の居住地や耕作地を維持していかなければならないなど様々な理由によりこの地域に残り、生活していると考えられる。従って、このような地域に安心して、安全に、快適に暮らしていける方法を見出すことが求められているのである。

このような課題に直面した際、地域内の課題を住民側の要望として行政に委ね、その要望に対し行政が税金を投入して解決を図ることが多く、住民側もそれを当然のことと考えていた。しかし、住民側の要望は多様化する一方、自治体の財政難などが顕著に見られるようになると、今までのように地域の課題解決を行政に委ねるだけでは解決の方策が見つからず、既存の企業誘致なども望めない状況である。今や、地域の問題や課題は、地域住民が主体となり、自主的に取り組み解決していかなければならないのである。

このことから、地域活性化の取り組みの一つとして、多様なコミュニティ事業の展開が有効であると考え、本研究に取り組んだものである。

第一章では、上記に触れたようなコミュニティ事業の意義と背景について述べている。

第二章では、先行研究からコミュニティ事業の概念について整理を行い、本研究におけるコミュニティ事業の定義を行っている。さらに、優良事例の調査を行い、事業の活動内容から事業の展開などを分析し、中山間地域におけるコミュニティ事業の有効性を述べている。

第三章では、調査地域である岩手県川井村内における既存のコミュニティ事業に関わる活動組織を調査し、組織の形成過程、資源活用の状況、活動展開、行政支援などを把握し、村内におけるこれら活動内容を述べている。また今後の事業展開の方向性を探り出すために、住民と離村した元住民に対して地域資源に関するアンケート調査を行い、住民が村内の地域資源をどのように捉えているのかについてまとめ、さらに元住民に対しては帰村意思について調査し、住民の意識について把握を行っている。

第四章では、第二章と第三章の調査結果から、対象地域における活動の形成条件とモデルについて検討し、協働で行うコミュニティ事業の可能性と対象地域の周辺地域との連携の必要性を述べている。

第五章では、各章のまとめを行い、本研究の対象地域以外の中山間地域におけるコミュニティ事業形成のあり方について検討を加えている。